

都中道研

第二二九号

会長 麻生 隆久（多摩市立聖ヶ丘中学校長）



令和五年度東京都中学校道德教育研究会の会長を拝命いたしました多摩市立聖ヶ丘中学校長の麻生隆久と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、コロナ禍において教育のICT化が一気に進み、道德科においても、タブレットや様々なアプリケーション等を活用した授業が行われるようになりましたが、これにより、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をいかに図るかが課題となっています。

また、評価についても、専用のソフトを利用するケースも多く、評価がパターン化されるという問

皆様の御指導、御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

令和五年度研究部活動計画

研究部長 池田 和幸

（杉並区立向陽中学校 副校長）

研究部会開催日時と主な内容

第一回 四月二十二日（土）

会場 多摩市立聖ヶ丘中学校

会長挨拶、参加者自己紹介、令和五年度研究主題、組織、北海道大会・栃木大会確認他

第二回 五月十三日（土）

会場 杉並区立向陽中学校

北海道全国大会提案検討

第三回 六月九日（金）

会場 杉並区立向陽中学校

栃木関プロ大会提案、北海道大会原稿検討

第四回 七月二十一日（金）

会場 杉並区立向陽中学校

全国・関プロ大会原稿検討

第五回 八月四日（金）

会場 杉並区立向陽中学校

全国・関プロ大会発表原稿検討

第六回 九月九日（土）

《オンライン》

全国・関東大会発表原稿修正

第七回 十月十四日（土）

会場 杉並区立向陽中学校

全国・関プロ大会発表原稿最終確認、研究発表大会授業者検討

第八回 十一月十一日（土）

会場 杉並区立向陽中学校

研究発表大会公開授業指導案検討

第九回 十二月十六日（土）

会場 杉並区立向陽中学校

研究発表大会公開授業指導案検討

第十回 一月十三日（土）

会場 杉並区立向陽中学校

研究発表大会公開授業指導案検討

第十一回 一月二十七日（土）

会場 杉並区立向陽中学校

研究発表大会リハール・公開授業・発表会準備

令和五年度研究発表大会

二月二日（金）午後一時三十五

分から【会場 杉並区立向陽中学校 web配信も予定】

第十二回 三月九日（土）

研究発表大会の反省、今年度の

まとめ、次年度の計画、今年度の

課題の確認等。

事務局だより

事務局長 生野 まゆみ

(調布市立神代中学校長)

一 総会・研修会

令和五年六月二十日(火)に中野サンプラザで実施しました。コロナ感染症対策として始めたハイブリッド型での開催をニューノーマルとして継続しています。会場参加とオンライン参加を合わせると約五十名の皆様にご参加いただき感謝しております。ご理解、ご協力、ありがとうございます。

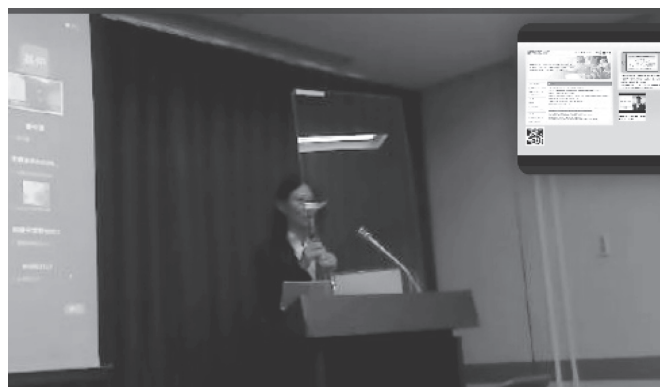
(一) 総会について

加藤 敏久 会長のあいさつに続き、来賓の東京都教職員研修センター指導主事 塚原 雄太 様にごあいさつをいただきました。続いて、令和四年度の活動報告、決算報告、会計監査報告について、ご説明し、ご承認いただきました。また、令和五年度の会長及び役員の推薦についてもご承認いただきました。会長は麻生 隆久 (多摩市立聖ヶ丘中学校長) が承

認されました。そして、相談役・顧問の推挙、活動計画案、予算案についてもご承認いただきました。

(二) 研修会について

国立教育政策研究所教育課程調査官 井上 結香子 様を講師にお招きし「道德教育のさらなる充実を目指して」を演題に、ご講演いただきました。「令和の日本型学校教育を踏まえた道德科の授業の充実に向けて」、「道德教育推進教師の役割」の二つを柱にお話しいただきました。現場で直面する課題に対するご指導、ご助言を



たくさんお示しいただきました。

二 第一回部員総会・研修会

令和五年八月二十二日(火)に高円寺学園で実施しました。六月の総会・研修会同様、ハイブリッド型の開催でした。夏季休業中の実施でしたが、会場での参加者は約三十名、オンラインでの参加は約二十名でした。たくさんの方にご参加いただき、感謝しております。ご理解、ご協力、ありがとうございます。

(一) 部員総会について

麻生 隆久 会長のあいさつに続き、来賓の全日本中学校道德教育研究会会長 月田 行俊 様にごあいさつをいただきました。

各部からは、滞りなく計画にそって活動をしているとの報告がありました。研究部からの報告は、研修会で行いました。

(二) 研修会

池田 和幸 研究部長(杉並区立向陽中学校副校長)より、研究部の活動について、報告がありました。

した。続いて研究部員による、研究の報告がありました。

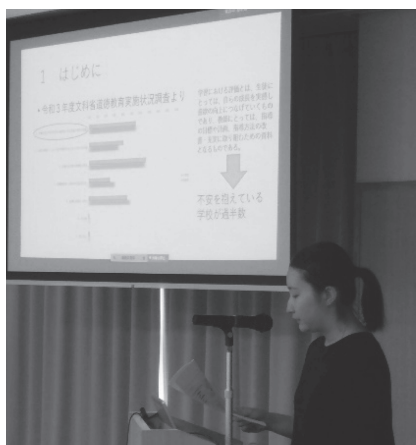
第五十七回全国日本中学校道德教育研究大会北海道大会での発表者である三瓶 真悟 研究部員(大田区立南六郷中学校)からは、大会主題「主体的に学び合う児童生徒の育成」well being の実現を目指した道德教育の実践」を受け「道德科と他の教育活動との関連」について研究報告がありました。



第五十二回関東甲信越中学校道德教育研究大会栃木大会での発表者である大谷 秋音 研究部員(世田谷区立桜丘中学校)からは、大会主題「未来を切り拓き、豊かな

心を育む道德教育「語り合い、高め合いより良い生き方を追究する生徒の育成」を受け、「道德科における評価の工夫」について、研究報告がありました。

研究報告については、麗澤大学大学院学校教育研究科道德教育専攻 教授 鈴木 明雄 先生を講師に招き、ご指導、ご講評をいただきました。また、鈴木先生には「主体的・対話的で深い学びを目指す道德科の授業改善」を演題にご講話いただきました。一部ですが内容をご紹介します。



「講話内容 一部」

行事の中で、失敗したことや励まし合って乗り越えたことなど、

生徒たちはたくさん経験をします。その経験からくる思いについて、道德科の授業でもう一回振り返りをするという面白い取組だと思いました

道德科の評価と指導ということについて。まず自分を振り返る、それから、対話です。対話は自己対話もあれば、仲間との対話もあります、本を読んだとか自分で調べたというのも対話です。そして、問いづくり。生徒は自分の問いをもち、追求していきます。その問いは解決するかどうかわかりませんが、道德科において、一番本質的なところだと思っています。

学習指導要領が求める「考え、議論する道德とは」についてですが、主体的な問いづくりが、議論につながります。問いづくりは、生徒が行うと思っていますが、狙いがあるのだから、教員が出すのだという人もいます。それについては、いつも議論しています。これまでの学習指導要領は、目標

と何を学ぶかという内容について書かれていました。ところが文部科学省から、どのように学ぶのかという方法の部分について示されたため、今回の学習指導要領にはこの方法の部分も書き込まれています。

道德の二十二の内容は、達成目標ではなく、いわゆる方向目標という考えです。学習指導要領に示された「主体的で深い学び」という考えに基づけば、生徒が自分なりの問いづくりをしていくことが大切であると考えます。よりよく生きることを考えるとき、白か黒と判断できない部分が多いため、生徒一人一人が、内面で構造化していくことが大切です。道德教育の内容、内容項目は、教師も生徒も一緒にあって理想的な人間のあり方を追求しながら、我々はいかに生きるべきかを、ともに考え、ともに語り合い、その実行に努めるための共通の課題です。師弟同業と表現する人もいました。

ここまで達成すればいいということではなく、教師も生徒も、いかに生きるべきか、ともに考え、ともに語り合う、そうしたことが大切とされています。



三 今後の研修会等について
各学校に案内を送付します。また、本研究会のホームページでもご案内いたします。ふるってご参加ください。

(一) 第二回部員総会・研修会
令和六年一月十九日(金)

会場 調整中

(二) 研究発表大会

令和六年二月二日(金)

会場 杉並区立向陽中学校

研究部より

研究部長 池田 和幸

(杉並区立向陽中学校副校長)

【研究主題】

「教科の特質を生かしつつ、これからの時代に対応する道德科の指導の工夫」

【主題設定の理由】

(1) 昨年度の取組の成果

「『一人一人が自己を見つめる時間』『価値や生き方の自覚を深める時間』『主体的に道德性を身に付けていく時間』である道德科を今こそ大切にし、生徒も教師も共に人間としての生き方を深く考えるようにする。各活動における道德教育の要として、それらを補ったり、深めたり、相互の関連を考えて発展させたり統合させたりする道德科ならではのすばらしさを再確認する。」と考え、道德教育推進教師の役割とカリキュラムマネジメント、ICT機器の効果的な活用の研究などに取り組み、「教科の特質を生かしつつ、これからの時代に対応する道德科の指

導の工夫」をテーマとして1年間の研究に取り組んだ。その結果、

生徒と教師がともに人間としての生き方を深く考える授業の大切さを再確認することができた。

(2) 課題

一方、課題としては、ICTの活用は、あくまでも授業改善の手段であり、それ自体が目的化しないように、常に授業のねらいを念頭に置いておくこと、また、そこに時間をかけすぎないようにすること、さらには、道德科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をどのように測ればよいか。そのためにICTをどのように活用すればよいかなどが、今後の課題である。また、4年間にわたって行われている「評価」についても、改めて成果と課題を検討し、より適切な評価のための工夫改善をいかに図るかも新たな課題として挙げられた。

(3) 本年度の研究主題

今年度のテーマも、「教科の特質を生かしつつ、これからの時代に

対応する道德科の指導の工夫」

として、コロナ禍後に求められる道德教育の役割を明らかにし、「ICT機器等を柔軟に活用しながら、生徒と教師が生き方をともに考える授業を通して、心を通わせしていくことができるようにするにはどうすればよいかを考えていく。

これまでの取組の成果と課題を活かし、さらに、学習指導要領で求められている「個別最適な学び」・「協働的な学び」を通して、人間性を涵養していくことをどのように実現していくかという視点も加えて本年度の研究に取り組むこととしたい。

【研究活動の進め方】

そこで、今年度も、これまでと同様、毎月の定例活動の中で、前半は、全国大会と関東大会の発表に向けてその内容を深める活動に重点を置き、後半は、その成果を活かし、研究テーマに沿った観点で部員相互の実践事例研究を進め、その成果を来年二月の研究発表大会当日の授業で公開

することとする。

また、全公立中学校に協力を依頼し、道德教育の充実に係るアンケート調査も継続実施し、これらの成果を研究紀要にまとめ、都中のHPにも発表すること、都中「予測困難な時代」でも対応できるように道德教育の充実に寄与する活動としたい。

編集後記

日頃より、都中道研の活動にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

この度、広報第一二九号をお届けいたします。今後も、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

広報部

部長 佐藤 正敏

(足立区立第十四中学校副校長)
副部長 高橋 優子

(国分寺市立第四中学校副校長)

都中道研のホームページ

<http://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=1350004>

<http://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=1350004>

